

平成 26 年 2 月 7 日

論文審査結果の要旨

専攻 入学年度	資源環境科学 平成 19年度 (4月) 入学	専攻 氏名	神山 智也
論文題目	超高齢社会に対応した園芸活動ならびにその色彩評価法の開発		
審査委員 職名及び氏名	主査	教授 位田 晴久	
	副査	教授 森田 哲夫	
	副査	教授 鉄村 琢哉	
	副査	准教授 大野 和朗	
	副査	教授 出口 近士	
審査結果の要旨 (800字以内)			
<p>本格的な高齢社会を迎えた今、園芸は高齢者の心身の健康の維持および増進、生きがいつくり、社会とのつながりの強化、認知症の予防などに効果があると考えられている。本研究は園芸活動による心理状態の改善効果の検証とその評価方法の開発、およびより多くの高齢者が楽しむことができる新しい園芸活動の開発を行なったものである。</p> <p>園芸活動の効果の評価については、心理調査法や脳波、心拍変動、血液成分などの生理測定法がこれまでに試みられているが、いずれも調査対象者に対し、かなりの負担を与え問題があった。そこで対象者への負担の少ない園芸活動の評価方法として「色彩評価法」を開発し、高齢者および学生について調査した。またその時に、確立されている従来の心理調査法も併せて行い、園芸活動による心理状態の変化を調査し「色彩評価法」の有効性を検証した。</p> <p>色彩評価法は対象者が色見本の中から選んだ色によって心理状態を把握しようとする評価法であるが、本色彩評価法でそれが達成されることが明らかとなった。さらに精度を高めるため数々の改良を加え、例えば提示色見本は当初は 22 色であったが、マンセル表色系の 10 色で十分であり、高齢者を対象とする場合はカラーユニバーサルデザインを取り入れた色見本を用いることや、2 色を選んでもらいその組み合わせを分析することにより対象者の心理状態をより詳細に把握することができた。また高齢者施設向けの栽培法の開発も行った。</p> <p>これらの結果から、色彩評価法は対象者の心理状態を十分に捉えることができ、高齢者自身や施設職員にとっても負担が小さいことから、特に高齢者を対象とした園芸活動の評価法として非常に有用であることが明らかとなった。</p> <p>本研究で得られた成果は、これまで困難とされていた高齢者による園芸活動の評価を容易ならしめ、それに基づく施策施行に利するものであり、本研究論文は博士論文として価値を有すると判断した。</p>			

(注) 論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。